

I 色々なタイプの信仰者達。：32

1. 色々な人々。

①ギデオン。

彼は臆病者だった。しかし、彼は、300人の兵士で、135,000人のミデヤンの軍隊（士師記8：10）を打ち破る主の業に用いられた（士師記6，7章）。

主は、イスラエルの民が自分達の力を誇らない為、また、主の偉大な力を示す為、元々32,000人いた兵士を、何とわずか、300人に減らして戦わせて勝利を与えられた（7：7）。

主は、人の数に左右されない偉大なお方。※証し。

②サムソン。

サムソンのことが、なぜ、聖書の4章（士師記13-16章）に渡って、長く記されているのだろうか？皆、不思議に思う。聖書は、二つの大切な事を教えようとしている。

i 不品行、軽率、高ぶりの罪は、その人から主の力を取ってしまう。

「『今度も前のように出て行って、からだをひとゆすりしてやろう』と言った。彼は、主が自分から離れられたことを知らなかった」（士師記16：20）。

ii 神は、どんな欠けの多い人でも、罪を認め、主に祈る人を用いて下さる

「神、主よ、どうか私に心を留めてください」（士師記16：28）。

③ダビデ。

彼は、立派な信仰をもって、いつも主に拠り頼んだ。また、長い間、サウル王に追いかけられ、命を狙われた。

しかし、しっかり主に結びついていて。

いつもダビデを殺そうとしている迫害者サウル王を二度も殺すチャンスがダビデに与えられても、主に立てられた器に手を出そうとはしなかった。

私なら、自分の命を守るため正当な防衛として、主が与えられたチャンスと捉え、手を下したことだろう。しかし、ダビデは、自分で手を出さず、主にお任せする信仰を持っていた。ダビデの信仰は、サウル王のひどい迫害と長い忍耐を通して、成長して行った。

彼は多くの詩篇の記者。試練の中で生まれた。※私たちの信仰の成長も！

そして、長い忍耐の末、時満ちて、イエスラエルの王となり、尊敬され、主が共におられ（Ⅱサムエル5：10）、ダビデはますます大いなる者となった。

と同時に、真実な聖書は、私たちへの警告の為に、ダビデの二つの大きな罪も記している。

i ダビデの軍隊が強くなり安定した時（Ⅱサムエル11：1，2）、バテ・シェバとの姦淫、不品行の罪を犯す（11：4）。

（※私達も気を付けよう！試練の時は熱心に祈るが、順調な時、誘惑の落とし穴が来る）

ダビデの罪は罪を生み、バテ・シェバの夫を戦場で死なせてしまう。その罪を彼は神に告白し、主の赦しを得る（詩篇51）。

神は、どんな罪も正直に告白し、おわびする時、赦されるが、蒔いた種の刈取りはさせられる。

「神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります」

（ガラテヤ6：7）。

ダビデの力はその罪の後から衰え始め、彼の家族の中も問題が増えて行った（Ⅱサムエル13-20章）。

ii 民の数を誇ろうとした人口調査（Ⅱサムエル24章）。

主は、人数ではなく、主ご自身に頼ることを喜ばれる。

④サムエル。

彼は、最後のさばきつかさ、士師として、民をペリシテから解放する（Ⅰサムエル7章）。

彼は祈りの人だった。

しかし、この立派なサムエルも、自分の子供達への信仰教育、信仰の継承には失敗してしまった（Ⅰサムエル8：3）。

私達も、これを教訓として、子供達が、しっかりと主を信じて歩めるように、へりくだって、祈りつつ、愛を示したい。

神の家族である教会としても、教会に来ている子供達を愛し、礼拝の恵み、子供賛美、子供メッセージ、子供質問、サマーキャンプへの参加の恵み、子供担当、見守り等を通して子供達が主を信じ、洗礼を受け、信仰を継承し、続けて礼拝を大切にするように祈りつつ育てたい。

2. これらの人々の生涯から学べる事。

①誰一人、欠点のない完全な人はいなかった。

しかし、彼らが、主に拠り頼む時、主は彼らを用いられた。主は、欠けのある人々、私達を用いて下さる。

②神が愛し救われる群れ、教会には、明るい人、物静かな人、活動タイプ、じっくり考えるタイプ、進歩的な人、保守的な人、大胆な人、慎重な人、縁の下の力持ち、皆をまとめリードする人等、色々な人がいる。神は、一人一人を違った人として造り、その違いを見事に調和させ、働きをさせ、主の教会を建て上げられている。それぞれ、自分の特徴と他の人の特徴、賜物を認め合い、受け入れあって、教会を建て上げ、人生を歩もう！

Ⅱ 信仰の色々な現れ方。：33-40

1.：30-37に記された人々の中には、有名な信仰の勇者もいたが、地上では、名も知れない立派な勇者もいた。神は、名もない人々の忠実な歩みをちゃんと知っていて下さる。そして、ある時は地上で、ある事は天で公平に報われる（ヘブル6：10、Ⅱコリント5：10）。

私達にとって大切な事は、この世で、いかに有名になるかではなく、隠れた所で見ていて下さる神（マタイ6：4）に、いかに喜んでいただけるかである。

2. 神による信仰の生涯には、両面がある。

①：33-35前半では、弱い私達人間に、神は偉大な力を与え、困難に立ち向かわせ、勝利を与え、奇蹟を与えて下さる。

②聖書は、真実に、もう一つの面「：35後半-38」を語られる。

人間的に見れば、報われない、悲惨さを示すこの御言葉は、実は、迫害を今も受けている人々に、大きな励ましを与える。なぜなら、この地上では、このような苦しみが沢山あり、歴史の事実として、主の為に殉教の死を遂げられた多くの人々を知っているからである。ここで、二つの事を覚えたい。

i 神は、力不足で、この迫害されている人々を助けられなかったのではないという事。

神は愛の故に、その人がもう、これ以上、地上で苦しまないように、ご自身のみもと、天に引き上げて下さった。また、「主への信仰を否定したら、助けてやるぞ」と言われても、喜んで主を告白しつつ死んで行く、その勝利の輝く姿を見て、敵は、主の力をかえって見せられ、主を信じるのである。

また、勝利の殉教の死を知らされた兄弟姉妹は、心が、なえるどころか、かえって励まされ、自分達の信仰を、もう一度、正すのである。

旧約時代、新約時代、過去の信仰の先輩達が、あらゆる犠牲を払いながらも信仰を保ったおかげで、私達日本にも福音が届いた。感謝！

殉教者の語源には、「証しする」という意味がある。

ii 殉教者は、失望の内に死んだのではない。

「もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました」：35。

※「ローマ時代の殉教者（宮坂亀雄・著）」参照。

3. そして彼らは、この世では約束のものを得なかったが（：39-40）、天で、神からの素晴らしい恵みと大いなる報いを受けた（マタイ5：12）。

そして、主の再臨の時に、彼らも、私達もいっしょに復活し、栄光の体をいただく。

主よ、心から感謝します。